

2023年12月期 中間決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月31日

上場会社名 琉球アスティーダスポーツクラブ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7364 URL <https://ryukyuasteeda.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役会長兼社長（氏名） 早川 周作
 問合せ先責任者（役職名） 取締役経理財務本部長（氏名） 田野口 浩太（TEL）098(851)8701
 中間発行者情報提出予定日 2023年9月29日 配当支払開始予定日 —
 中間決算補足説明資料作成の有無 : 無
 中間決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2023年12月期中間期の連結業績（2023年1月1日～2023年6月30日）

（1）連結経営成績 （%表示は、対前年同期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期中間期	261	115	△50	—	△51	—	△53	—
2022年12月期中間期	226	161	△107	—	△107	—	△107	—

（注）中間包括利益 2023年12月期中間期 △53百万円（—%） 2022年12月期中間期 △108百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期中間期	△32.90	—
2022年12月期中間期	△72.27	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期中間期	248	△195	△79.1	△121.10
2022年12月期	351	△142	△40.7	△88.20

（参考）自己資本 2023年12月期中間期 △196百万円 2022年12月期 △142百万円

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	0.00	0.00	0.00
2023年12月期	0.00		
2023年12月期(予想)		0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	562	12.4	△48	—	△48	—	△51	—	△31.68

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間連結会計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期中間期	1,619,700株	2022年12月期	1,619,700株
② 期末自己株式数	2023年12月期中間期	-株	2022年12月期	-株
③ 期中平均株式数(中間期)	2023年12月期中間期	1,619,700株	2022年12月期中間期	1,492,500株

※中間決算短信は公認会計士又は監査法人の中間監査の対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料 P. 3 「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書.....	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

（1）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類感染症に変更されたことから行動制限がなくなり、国内消費はコロナ前の水準に向け徐々に回復しつつあります。一方で、ロシアのウクライナ侵攻の長期化に伴う原材料価格の高騰や、急速な円安が助長する物価高、人手不足による人件費の増加が続くなど、依然として不透明な状況であります。

また、飲食業界全体もこのような経済環境を反映し、客数増加による売上増加の一方、原価、人件費等の経費が増加するなど、依然として厳しい外部環境に置かれている状況であります。

当社グループはこのような環境下においても、「夢への道を拓き、明日を照らす光となる。」というミッションのもと、「沖縄から世界へ」を合言葉に各事業を展開してまいりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（スポーツ関連事業）

スポーツ関連事業におきましては、Tリーグ2022-2023シーズンにおいて、琉球アスティーダが2年ぶり2回目のTリーグの優勝を果たしました。その影響もありスポンサーの獲得も順調に推移しており、売上高は159,161千円（前年同期比136.0%）、セグメント利益は21,187千円（前年同期はセグメント損失5,443千円）となりました。

（飲食事業）

飲食事業におきましては、昨年度において不採算店舗の撤退を進めた一方、新たに秋田県に沖縄県外初のフランチャイズ店舗をオープンした結果、店舗数は直営が5店舗、フランチャイズが4店舗となり、売上高は102,162千円（前年同期比92.9%）、セグメント利益は416千円（前年同期はセグメント損失27,348千円）となりました。

（その他事業）

その他事業におきましては、マーケティング事業及びアスリートマネジメント事業とも立ち上げの遅れにより、セグメント損失は773千円（前年同期はセグメント損失838千円）となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は261,324千円（前年同期比115.1%）、営業損失は50,490千円（前年同期は営業損失107,574千円）、経常損失は51,303千円（前年同期は経常損失107,380千円）、親会社株主に帰属する中間純損失は53,288千円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失107,860千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（ア）資産

当中間連結会計期間末における流動資産は212,947千円となり、前連結会計年度末に比べ101,728千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が69,109千円、売掛金及び契約資産が27,976千円減少したことによるものであります。固定資産は35,059千円となり、前連結会計年度末に比べ1,450千円減少いたしました。この結果、総資産は、248,007千円となり、前連結会計年度末に比べ103,179千円減少いたしました。

（イ）負債

当中間連結会計期間末における流動負債は255,017千円となり、前連結会計年度末に比べ34,912千円減少いたしました。これは主に買掛金が30,295千円及び未払金が18,449千円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は188,637千円となり、前連結会計年度末に比べ14,676千円減少いたしました。この結果、負債合計は、443,654千円となり、前連結会計年度末に比べ49,588千円減少いたしました。

(ウ) 純資産

当中間連結会計期間末における純資産は195,647千円の債務超過（前連結会計年度末は142,057千円の債務超過）となりました。この結果、自己資本比率は Δ 79.1%（前連結会計年度末は Δ 40.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、国際情勢不安や米国をはじめとする物価変動や各国の中央銀行による政策金利の引き上げの懸念等によりわが国の経済の先行きについては依然として不透明な状況にあります。

このような環境の中、スポーツ関連事業におきましては、2023年7月に開幕したTリーグ2023-2024シーズンにおいて、琉球アスティーダは連覇を果たすべくチームは始動しております。また、5月より、経営者の悩みを解決し、参加メンバーの事業成長を支援する会員制経営者コミュニティ、アスティーダサロンも開始し、運営を行っております。

飲食事業におきましては、経済状況の緩やかな回復傾向の現状を捉え、客数増加による売上の増加を果たすべく、店舗QSCの改善による店舗運営レベルの更なる向上、新ブランド・特撰メニューの導入、季節に応じたキャンペーン企画を実施することで集客を図ってまいります。

以上のような取り組みを推進するとともに、わが国の経済活動が正常化することで、業績は改善に向かうものと考えております。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当中間連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	187,951	118,842
売掛金及び契約資産	68,066	40,089
棚卸資産	3,694	1,541
前払費用	51,683	51,492
その他	4,034	1,502
貸倒引当金	△754	△522
流動資産合計	314,676	212,947
固定資産		
有形固定資産	159	3,669
投資その他の資産		
投資有価証券	15,000	10,000
長期前払費用	12,475	12,289
その他	13,158	16,882
貸倒引当金	△4,282	△7,781
投資その他の資産合計	36,351	31,390
固定資産合計	36,510	35,059
資産合計	351,186	248,007

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当中間連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	61,786	31,491
短期借入金	30,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	27,452	29,352
未払金	50,939	32,489
未払法人税等	4,288	1,696
契約負債	107,405	119,562
その他	8,057	10,425
流動負債合計	289,930	255,017
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	198,313	183,637
その他	-	-
固定負債合計	203,313	188,637
負債合計	493,243	443,654
純資産の部		
株主資本		
資本金	175,490	175,490
資本剰余金	136,547	136,547
利益剰余金	△454,892	△508,180
株主資本合計	△142,855	△196,143
新株予約権	400	400
非支配株主持分	398	95
純資産合計	△142,057	△195,647
負債純資産合計	351,186	248,007

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

①中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高	226,989	261,324
売上原価	129,022	144,594
売上総利益	97,966	116,730
販売費及び一般管理費	205,541	167,220
営業損失(△)	△107,574	△50,490
営業外収益		
受取利息	1	300
利子補給金	332	319
その他	1,867	824
営業外収益合計	2,200	1,444
営業外費用		
支払利息	1,155	1,780
株式交付費償却	750	-
その他	100	476
営業外費用合計	2,005	2,257
経常損失(△)	△107,380	△51,303
特別損失		
固定資産売却損	-	287
減損損失	-	303
特別損失合計	-	590
税金等調整前中間純損失(△)	△107,380	△51,893
法人税、住民税及び事業税	1,451	1,696
法人税等合計	1,451	1,696
中間純損失(△)	△108,831	△53,590
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△970	△302
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△107,860	△53,288

② 中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
中間純損失 (△)	△108,831	△53,590
中間包括利益	△108,831	△53,590
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△107,860	△53,288
非支配株主に係る中間包括利益	△970	△302

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失(△)	△107,380	△51,893
減価償却費	597	51
減損損失	-	303
固定資産売却損	-	287
長期前払費用償却額	4,597	185
のれん償却額	5,742	-
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4,805	3,268
株式交付費償却額	750	-
受取利息及び受取配当金	△1	△0
有価証券利息	-	△300
支払利息	1,155	1,780
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	61,744	27,976
棚卸資産の増減額(△は増加)	603	2,152
前払費用の増減額(△は増加)	14,694	190
仕入債務の増減額(△は減少)	△34,334	△30,295
未払金の増減額(△は減少)	△36,939	△18,449
前受金の増減額(△は減少)	△25,608	-
契約負債の増減額(△は減少)	△4,062	12,156
未払消費税等の増減額(△は減少)	8,513	3,144
その他	8,159	△4,092
小計	△96,961	△53,535
利息及び配当金の受取額	1	400
給付金の受取額	7,000	-
利息の支払額	△1,155	△1,435
法人税等の支払額	△3,052	△2,691
営業活動によるキャッシュ・フロー	△94,168	△57,261
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△736	△4,942
有形固定資産の売却による収入	-	870
有価証券の償還による収入	-	5,000
長期前払費用の取得による支出	△353	-
敷金の差入による支出	△1,831	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,920	928
財務活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△2,880	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	450	-
短期借入金の純増減額(△は減少)	△41,500	-
長期借入れによる収入	10,000	-
長期借入金の返済による支出	△6,572	△12,776
長期未払金の返済による支出	△1,152	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△41,654	△12,776
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△138,743	△69,109
現金及び現金同等物の期首残高	225,588	187,951
現金及び現金同等物の中間期末残高	86,844	118,842

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度に営業損失 213,307 千円、経常損失 212,981 千円、親会社株主に帰属する当期純損失 265,304 千円を計上し、営業キャッシュ・フローは 149,277 千円の支出となりました。当中間連結会計期間においても営業損失 50,490 千円、経常損失 51,303 千円、親会社株主に帰属する当期純損失 53,288 千円を計上し、営業キャッシュ・フローは 57,261 千円の支出となりました。その結果、当中間連結会計期間末において 195,647 千円の債務超過となりました。これにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、仕入発注管理の見直し、広告宣伝費などの販売費及び一般管理費の削減、飲食事業における来店客数の増加を図るためのキャンペーンを実施しているほか、2023年5月より、経営者の悩みを解決し、参加メンバーの事業成長を支援する会員制経営者コミュニティ、アスティーダサロンの運営を行っております。これらにより、営業損益及び営業キャッシュ・フローの改善を図り、琉球アスティーダ、九州アスティーダとの相乗効果を図ることでスポンサーの獲得につなげてまいります。また、財務健全化のため 2023年8月25日に短期借入金 30 百万円の借替えを実施しました。今後も必要に応じて資金調達を行うことにより、運転資金の安定的確保を図ってまいります。

以上の対応策を実施することにより、事業面及び財務面での安定を図り、当該状況の解消及び改善に努めてまいります。しかしながら、上記の対応策等は実施途上であること、特にアスティーダサロンの運営においては将来の売上見込についての予測を含んでおり、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前中間連結会計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	中間連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	スポーツ 関連事業	飲食事業	計			
売上高						
一時点で移転される財又は サービス	22,891	108,806	131,697	-	-	131,697
一定の期間にわたり移転され る財またはサービス	94,114	1,157	95,271	20	-	95,291
顧客との契約から生じる収益	117,005	109,963	226,969	20	-	226,989
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	117,005	109,963	226,969	20	-	226,989
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,636	-	1,636	-	△1,636	-
計	118,641	109,963	228,605	20	△1,636	226,989
セグメント損失 (△)	△5,443	△27,348	△32,792	△838	△73,944	△107,574

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているマーケティング事業及びアスリートマネジメント事業を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△73,944千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント			そ の 他 (注) 1	調 整 額 (注) 2	中間連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	スポーツ 関連事業	飲食事業	計			
売上高						
一時点で移転される財又は サービス	48,996	98,392	147,389	-	-	147,389
一定の期間にわたり移転され る財またはサービス	110,164	3,770	113,935	-	-	113,935
顧客との契約から生じる収益	159,161	102,162	261,324	-	-	261,324
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	159,161	102,162	261,324	-	-	261,324
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	159,161	102,162	261,324	-	-	261,324
セグメント利益又は損失 (△)	21,187	416	21,603	△773	△71,320	△50,490

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているマーケティング事業及びアスリートマネジメント事業を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△71,320千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。